

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2674100439		
法人名	医療法人社団洛和会		
事業所名	洛和グループホーム勸修Ⅱ番館 3F		
所在地	京都市山科区勸修寺西金ヶ崎238番地		
自己評価作成日	令和2年11月20日	評価結果市町村受理日	令和3年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=2674100439-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	令和3年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

洛和グループホーム勸修Ⅱ番館は3ユニット利用者27名、職員も20名を超える3ユニットのグループホームである。そばには川が流れており、散歩や外気浴など季節を感じられる環境の中にある。今年は毎年行っていた利用者、職員が交流出来るように2か月に1度のⅡ番館交流会、外食、外出、秋祭りが新型コロナウイルス感染症予防のため実施できないが、室内でも楽しめるような催しや季節感が感じられるようにご利用者とともに季節の張り絵、4月は大きな桜の木を飾りお花見を行うなど工夫している。
またⅡ番館新聞を各ユニットで毎月発行し日常生活がお伝えできるようご家族に配布しています。日頃よりフロア内は手作りの壁飾りやカレンダーで季節感を出せるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念については、毎日唱和することで共有化を計っている。事業所としても「笑顔とぬくもりのある穏やかな生活を支援します」の理念を各階入り口に設置しカンファレンスや日頃から話し合い共有、実践につなげている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として地域の町内会に加入しており、回覧板の案内等により地域の行事情報を収集している。毎年、年1度の近隣保育園との交流や、GH主催の秋祭りで地域住民と交流を図っていたが新型コロナウイルス感染症予防により実施できず		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では現状を報告し地域の方々の意見を聴き、アドバイスをし合う関係性を築いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症予防により当事業所での開催は見合わせている。開催予定月に電話連絡にてGHの報告や地域での取り組み、行事情報を収集し議事録を送付している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の中で地域の方々の意見を聞きアドバイスもするという関係性。市町村へは入退去の報告や運営推進会議の議事録を渡している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、母体の研修があるも今年度はコロナ禍により動画視聴研修であり、視聴・伝達研修にて自己覚知を促している。また全職員へ身体拘束の自主点検のアンケートを年2回実施している。玄関は近頃の世情に合わせ時間を決めて施錠しているが中からは誰でも開けられる施錠方法		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても、母体の研修がある。今年にはコロナ禍により動画視聴研修であり、視聴・伝達研修を行っている。毎月ひとり1枚以上の不適切ケアのヒヤリハットを提出し自己覚知や回覧・カンファレンスで振り返り気づきにつなげ防止につとめている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には法人内外の研修への参加を促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は入居相談センターの職員と管理者やリーダーが契約書を読み合わせ形で十分に時間をかけ説明して納得の上で入居となる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から意見を言いやすい関係性作りを実施しながらも、職員は家族に合わせて対応方法を統一している。コロナ禍での面会方法など手紙や口頭でこまめに連絡している。苦情については、管理者が窓口、事業所の玄関には意見箱を置き、意見等を出しやすい環境にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のカンファレンスで職員一人一人の意見を出し合ったり、議事録を作成して職員に回覧し意見を聞く機会づくりとしている。日頃より職員とのコミュニケーションの機会を作り気軽に意見を言えるように配慮している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アンケートを実施し職員個々の給与水準や労働時間に対する思い、やりがいの把握に努めている。働き方改革の波があり、職員の休憩の確保、給与の面でも職員の関心は高い		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としてキャリアパス制度を確立し各職員の実績と力量の把握、力量に応じた研修がありモチベーションにも繋がっている。法人外研修への参加についても機会がある。法人内の研修内容は全職員に回覧している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での認知症サポーター講座を地域包括支援センター主導のもと他事業所と協力にて開催していたが今年度はコロナ禍により実施できず。法人を通じた勉強会や法人外の研修参加にて同業者と交流を行いケアの質の向上に取り組んでいる		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談センターの職員が入居前の段階で関わり、関係作りに務めており、得られた情報を共有している。GH職員同席の入居前の面談にて本人の要望を確認し、ケアプラン作成し、不安の軽減に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談センターの担当者が集めた情報と施設の担当者、入居前面談時の情報と共有することで関係作りにつとめている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の担当者が本人家族と面談し必要なサービスをみきわめている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支えあい生きるといった考えに添ったケアを提供しており、尊厳の保持を行うために、職員間で話し合いを持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を中心に共に支えあう関係となるように、事業所から働きかけている。家族だけの意見で判断せず、本人の思いも尊重し、職員が間に入りながらケアを提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式を活用し、本人と家族や馴染みの人との関係の理解に努めている。馴染みの人や場所について話題にし、思い出が薄れないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、共同生活している中で、共に食事をしたり会話の機会を作り、お互いに支えあっていけるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した際には、いつでも気軽に相談して頂けるよう声かけをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月カンファレンスでアセスメントを行い、本人の立場になって検討している。「C-1-2シート」をそれぞれ職員が作成、共有し利用者の想いの把握に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を閲覧することにより情報収集し、これまでの生活歴や暮らし方、生活環境などの把握を努め、情報の共有を図る。また入居後も家族や可能な限り本人からも聴いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしく生活できるように、有する力をはかりながら役割などにつなげている。また、日々記録を残すことにより、職員間で現在の状態の把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中から気づいたことを職員間だけでなく本人、家人、医師、看護師等と意見交換し介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画に基づいたケアの実践・結果・気づきなどを記録に残し、職員間で共有する事によって介護計画の見直しやそれぞれの実践に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在コロナでの外出自粛の中でも月に一回行事を開催し、外に出なくても楽しめるように工夫をして出来る限り、柔軟なサービスの提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策のため、外出、散歩などが行えていないが、玄関前での日光浴の時など、十分な距離をおいたうえで、近隣の住民とあいさつなどを交わしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診医の訪問があり、必要に応じて電話相談もしている。また本人やご家族の希望する病院に受診をする場合は紹介状を書いていたいたり適切に対応していただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の健康チェックを週1回受けており、24時間対応で電話相談し指示を受けている。体調不良の際は早期に受診や医師への連絡につなげるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院となったときは介護サマリーを作成し情報を共有している。入院中はこまめに病院相談員と連絡を取り、情報収集や早期退院につなげ、その情報を職員間で共有している。必要に応じて退院時のムンテラにも職員参加		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化・看取りの指針について説明を行い、利用者の状態が重度化・終末期に近づいてこられた時には改めて説明し、医師・看護師を交えて話し合いの場を設けている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が定期的に救急救命講習に参加し対応できるよう体制を整えている。現在はネットでの救急対応の動画視聴で研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	約2ヶ月に一度のペースで事業所内での避難訓練を実施して災害時に備えている。その内の年2回消防署の立会いで日中、夜間想定の実践を実施している		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月に一人、1件不適切ケアについて報告を行いプライバシーについてカンファレンスで話し合っている。「プライバシーの保護」に関して研修も受けている。個人情報の保護は鍵つきロッカーにてしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位の生活となるよう日々のケアにあたっている。センター方式の活用にて利用者の思いを知り、情報の共有に勤めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者とは話し合いながら希望を聞き、個別ケアを行っている。又日々においても常に利用者とは相談しやりたいことを実現している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時、季節に合わせて利用者と職員が一緒になって選んでいる。本人の趣向に合わせて服を選んで買っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューは冷蔵庫をみて何が作れるのか、何が食べたいのか相談したりメニュー内容を伝えている。感染予防対策により一緒に作ったり、面談調理は自粛中だが下膳など片づけは共に行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェックはこまめに行っており、データも取っている。普通食、刻み食、ミキサー食とその人の状態を見て提供している。必要のある方には言語聴覚士に相談して、本人に合った食事方法を手協している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後には必ず口腔ケアを行っている。出来ない方は職員が介助している。週一回歯科衛生士の訪問があり、チェックもしてもらっている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、タイミングよくさりげなくトイレ誘導し、プライバシーの保護を行いながらトイレでの排泄や排泄の自立に向けて支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食野菜を多く取り入れ提供するようにしている。水分補給を常に行っている。又服薬にて排便コントロールや歩行の促しなど便秘への予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は時間帯や曜日を決めず、個人の希望に応じて対応している。二日に一回は入っていただくように声掛けしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中傾きが見られたり、前日の様子、体調に応じ休息できる時間を持つようにしている。夜間はトイレ誘導を行ったりと眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回出る処方箋にスタッフが目を通して、又主治医に相談しながら症状の変化に応じて服薬支援をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や楽しみを持ったその人らしい生活ができるように介護計画立案し必要な支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じ個別に外出していたが新型コロナウイルス感染症対策のため実施できない。敷地内の駐車場や玄関前ベンチ、ペランダでの日光浴など法人の感染症マニュアルに添って可能な限りの範囲で外との関わりにつなげている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方は家族に了解を得た上で所持してもらっている。今年は職員やご家族で購入支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人から電話がかかってくる。本人の希望で電話かけることもある。手紙の返事を投函したり、手紙を書く際にも手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて飾りつけを変更する他冬期は和室にコタツを設置して居心地良く過ごせる生活空間を提供している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や廊下に設置してあるソファー等少し席を離れて過ごせる場所を設定している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や食器等を入居時に持参してもらい本人が居心地良く過ごせるように支援している。又花を飾ったり、家族の写真や、趣向に合わせた本を置いたり、手芸作品を飾っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を把握し、本人の思いを尊重しながらも安全に生活できるよう家具などの配置も工夫している。リスクマネジメントをカンファレンスで話しあい、ベッドの配置やフロアでの食事席の変更を行い、動線の確保を実施して		